



サイエンスとテクノロジーで
夢をかたちに

D&I・国際交流委員会の活動概要
Committee's activities for D&I・International Relations

活動目標

ダイバーシティ&インクルージョンを推進することにより、個が尊重され、各々の才能を十分に発揮できる社会の実現を目指し、様々な活動を行っています。応用物理学内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、国際交流、社会の活性化に寄与したいと考えています。

2025年度よりD&I・国際交流委員会になりました

応用物理学会(JSAP)は、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)活動と国際交流活動の関係性が強まったことを受け、2025年度より両委員会を統合し、新たにD&I・国際交流委員会を設立しました。この統合は、多様性の尊重と国際的連携を一体的に推進し、インクルーシブでグローバルな科学コミュニティを形成するための重要な一歩になると考えています。

委員会の沿革

- 2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会を発足
- 2001年7月 「男女共同参画委員会」設立
- 2006年3月 「人材育成・男女共同参画委員会」へ発展的改称
- 2011年4月 「人材育成・教育事業委員会」へ改編
- 2012年2月 「人材育成委員会」へ改称
- 2015年3月 「男女共同参画委員会」へ改称
- 2022年3月 「ダイバーシティ&インクルージョン委員会」へ発展的改称
- 2025年4月 「D&I・国際交流委員会」へ発展的改組



公開シンポジウム・無料チュートリアルセッションの開催

毎年、春季学術講演会でダイバーシティ&インクルージョン(D&I)に関わる公開シンポジウムを対面とオンラインのハイブリッドで開催しています。シンポジウムでは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、男女・文理・職種・国籍の観点からD&Iについて考えたり、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々なテーマを取り上げており、パネルディスカッションで参加者との意見交換も行なっています。

<最近のシンポジウムテーマ>

- 2021年: 時代の変革期こそ応用物理分野を輝かせよう
- 2022年: ジェンダー・イノベーションを通して考える応用物理の男女共同参画
- 2023年: 多様な視点から進むダイバーシティ&インクルージョン
- 2024年: 若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか?
- 2025年: 理工系人材の枯渇危機をどう乗り越えるか?!
- ~15歳からのキャリアパスを考える~

<チュートリアルセッションのテーマ>

- 2024年: D&Iを目指す事例紹介:「大学入試への女子枠導入」を経験して
- 2026年は国際交流の観点も含めたシンポジウムを予定しています。

表彰事業

2009年~2021年に実施した「女性研究者研究業績・人材育成賞(小館香椎子賞)」を発展させ、2022年に「応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン賞(D&I賞)」を新設しました。本賞は、研究業績・人材育成に加えて、多様性の尊重とインクルージョン推進に顕著な貢献を行った研究者・組織を顕彰し、応用物理分野の活性化と多様な人材の参画を促すことを目的としています。



国際交流

2002年にInternational Union of Pure and Applied Physics(IUPAP) - International Conference on Women in Physics(ICWIP)に日本物理学会と合同で参加・講演したのを皮切りに、定期的に同会議やGS(Gender Summit)等に参加し、講演を行っています。

応用物理学会D&I・国際交流委員会の活動紹介の他、各種データに基づく分析・考察を通じて、D&Iの現状と課題について国内外へ発信しています。



ネットワークの強化

多くの会員に性別、国籍、分野を問わずにつながりを作る場として、「NEWMAP(NETwork for Women and Men in Applied Physics)」や学術講演会にてPresident's reception等を開催しています。



勉強会・調査活動の実施と情報の発信

D&Iの現状把握のための勉強会やアンケート分析等の調査活動を行うとともに、これらの結果や委員会の活動について、定期的に学会誌「応用物理」に記事を掲載したり、学会のwebサイトの委員会ページに随時掲載する等、積極的に情報の発信を行なっています。

<最近の「応用物理」掲載記事>

- 第72回応用物理学会春季学術講演会シンポジウム「理工系人材の枯渇危機をどう乗り越えるか?! - 15歳からのキャリアパスを考える -」(2025年94巻8号pp.461-462)
- D&I委員会と国際交流委員会の統合について: 背景と意義(「応用物理」2025年94巻6号pp.336-337)
- 第85回応用物理学会秋季学術講演会ダイバーシティ&インクルージョン委員会特別企画チュートリアル講演会「D&Iを目指す事例紹介~大学入試への女子枠導入を経験して~」報告(2025年94巻3号pp.165-166)
- 【「応用物理」編集委員会企画・特別座談会】多様な研究者を生む!!(2024年93巻8号pp.458-465)
- 第71回応用物理学会春季学術講演会特別シンポジウム「若手・氷河期世代・女性研究者の声はどこまで届いているか?」開催報告(2024年93巻8号 pp.503-504)
- ダイバーシティ&インクルージョン委員会2023年度勉強会報告 ~インクルーシブな教育と雇用に向けて~(2024年93巻6号pp.367-368)
- International Conference on Women in Physics(ICWIP)参加報告(2024年93巻3号p.189)
- 数字でみる男女共同参画(4)(2023年92巻12号pp.752-753)
- 第70回応用物理学会春季学術講演会特別シンポジウム「多様な視点から進むダイバーシティ&インクルージョン」開催報告(2023年92巻7号pp.446-447)
- 男女間の積極的格差改善措置について考える(2023年92巻4号pp.247-248)

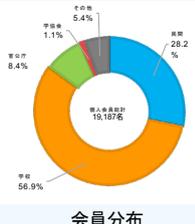
女子中高生の理系進路選択支援

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、2008年から「女子中高生夏の学校」へ参加しています。キャリア講演、サイエンスアドベンチャーでの実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんと交流し、応用物理の魅力を伝えています。



AP 応用物理学会とは?

工学と物理学の接点にある最先端の研究課題、学際的なテーマに取り組み、日本の科学技術を牽引しています。会員数は約2万人で、大学・公的研究所の会員に加え、民間企業の研究開発部門に所属する技術者・研究者が重要な役割を果たしています。年2回の学術講演会は国内最大級で、海外の研究者も含めて約1万3千人(春秋合計)もの参加者が集まります。英国物理学会出版局(IOP Publishing)と提携して国際的英文論文誌JJAPとAPEXを刊行しています。



応用物理学会におけるダイバーシティ



応用物理学会員の女性割合及び海外出身者(※母国語が日本語以外)の割合は左図のように年々増加しています。女性会員の割合は8%程度で、あまり高くはありませんが、会長・副会長・理事等の役職者および代議員は2025年には2割を達成しました。今後、女性会員のみなならず、海外出身者の活躍がさらに広がるように委員会活動をすすめていきます。

